

令和4・5年度  
熊本県教育委員会指定  
公益財団法人熊本県学校保健会委嘱・一般財団法人熊本県PTA教育振興財団委嘱

『防災教育研究推進校』研究発表会

研究主題

「主体的に判断し、安全なまちづくりに  
貢献できる生徒の育成」



令和5年11月22日(水)

芦北町立湯浦中学校



<学校教育目標>

自立心にあふれ、夢の実現に向けて  
挑戦し続ける生徒の育成



未来の大規模災害発生時に自分たちや地域住民の命を守ること



研究主題

「主体的に判断し、安全なまちづくりに貢献できる生徒の育成」

災害時における主体的な判断力・行動力

「自助」「共助」「公助」

授業等改善部

授業や避難訓練を通して防災意識を高め、知識を深める

研究の柱

- ア 防災に関連した学習内容の見直し改善（「自助」から「共助」「公助」に結びつける学習計画の作成）
- イ 防災に関連した内容での研究授業と地域の方からの講話の実施
- ウ 生徒を「学びの主体」とし、自己決定する場面や自己有用感を高める工夫を取り入れた授業の実践
- エ 防災意識を高める避難訓練の工夫（学級活動、道徳科の授業との連動）

主な実践

- ① 授業カリキュラムの編成
- ② 研究授業の実施
- ③ 避難訓練の実施と改善

体験学習部

体験学習を通して主体的な判断力・行動力を育み、実践力を高める

研究の柱

- ア 総合的な学習の時間を中心にした防災食作り体験や避難所運営体験等の新しい体験型の防災学習の取組
- イ 職場体験や集団宿泊、修学旅行等の学年の行事での防災の学習（学校以外の場所での防災への取組の聞き取り）
- ウ 主体性と行動力を高める生徒会活動の充実
- エ 防災学習で学んだことを地域や家庭へ発信

主な実践

- ① 総合的な学習の時間での防災学習の実施
- ② 学校行事での防災学習の実施
- ③ 生徒会活動での防災学習の実施

## 主題設定の理由

中学校学習指導要領第1章総則では、中学校教育の基本と教育課程の役割の中で、安全に関する指導が適切に行われることが記されている。地震や風水害をはじめとする想定を超える自然災害の発生や、情報化等の進展に伴う生徒を取り巻く環境の変化を踏まえ、生徒の安全・安心に対する懸念が広がっていることから、災害が発生した場合に、状況を的確に判断し、主体的に適切な行動ができる能力や態度を生徒一人一人に育成する指導の充実が必要である。そのためには、防災や非常時の対応等の知識に関する指導を充実させるだけでなく、防災上の諸問題を含む日常の課題について、正しい情報を入手し、主体的に考え、行動につなぐ力をつけることが大切である。

本校区は、平成28年の熊本地震、令和2年7月豪雨による被害もあったが、生徒たちの災害経験には差がある。生徒がこれらの災害の経験を振り返りながら学び、「自分自身の安全を守る（自助）」から「周囲の人たちと協力して助け合う（共助）」ために主体的に行動し、「公的機関による救助活動等の支援（公助）」に目を向け、自然災害から自分や周りの人々、そして地域を守ろうとする態度を育成していくことが必要であると考え、本主題を設定した。

## 研究の仮説

### 【仮説1】

防災に関連した内容について、各教科での洗い出し、系統性や学年間の連携を考慮した学習計画の見直し改善を行い、生徒を「学びの主体」とした授業や効果的な避難訓練を日常化すれば、防災上の諸課題に対しての知識や主体的に考える力を身に付けることができるであろう。

### 【仮説2】

総合的な学習の時間を中心とした体験型の防災学習を工夫して行ったり、生徒会活動に防災学習の視点を取り入れたりすることで、生徒の防災意識が向上し、災害時における主体的な判断力・行動力を身に付けることができるであろう。

## 生徒を「学びの主体」とした湯中授業モデル

### 【課題解決のために主体的に考え、行動することができる生徒像】

- 自ら進んで情報収集などを行い、自分の考えを持つことができる。
- 意見や考えを比較交流させ、自分の考えをまとめることができる。
- 状況に応じてリーダー等の役割を担い、他と協力して取り組むことができる。

## 学習課題の設定

課題解決に見通しを持つ。

## 自力解決

自分で考える。（解決の方法の決定）

## 共同解決

共同解決を行う。（比較交流）

## まとめ 振り返り 習熟・活用

自分の考えを整理し学習内容をまとめる。

学習で獲得した知識や技能を習熟したり活用したりする。



## 【仮説 1】の実践

授業や避難訓練を通して防災意識を高め、知識を深める

### 実践事例① 「授業カリキュラム」の編成

授業を通じて生徒の防災意識を高めるためには、全職員が「継続的に」「連携して」防災教育の視点を持った授業づくりをする必要がある。そこで、研究授業や内容の協議を行いながら、防災と関連のある教科等を横断的な視点から洗い出し、「授業カリキュラム表」を作成した。特に、学級活動、道徳科を避難訓練と関連づけて行うカリキュラムの作成に力を入れた。

0月	休休	氷	長く氷ぐ方法、有伏氷	日	1年【主に自助】		
6月	音楽	夏の思い出(日本の歌のよさや美しさを理解して表現しよう)	自然や季節の様子を知り、畏敬の念を高める		実施月	教科	内容
7月	社会	田沼の政治と寛政の改革(歴史)	浅間山の噴火がもたらした被害	共助	7月	学活	マイタイムライン①
7月	英語	Program 3 Taste of Culture	食文化に対する理解				
9月	社会	日本の諸地域～九州地方～	火山や台風の多い地域で暮らす人々	共助			
10月	家庭	災害への対策	災害への備えについて考え、対策を工夫する。	共助	10月	総合	校外学習(あしきた青少年の家)での防災学習
11月	社会	日本の諸地域～近畿地方～	阪神・淡路大震災後の取組	公助			
11月	英語	Power-In レストランで食事しよう	食事の際に使う表現を理解する。		11月	総合	地域調べでの防災学習(防災マップの作成と発表)

### 実践事例② 研究授業の実施

生徒が自然災害の前兆を察知し、危険を回避する行動を主体的にとることができるようにするためには、防災についての基礎的な知識を身に付けている必要があり、確かな知識があってこそ実践的な能力や態度が発揮される。その視点に基づき、研究授業を行った。平成28年熊本地震関連教材「つなぐ～熊本の明日へ～」の各学年による活用方法を模索した。また、「くまもとマイタイムライン」を学年ごと3つのステップに分け、知識面、行動面を段階的に考えるようにした。

#### ⑦ 学活(マイタイムライン)の授業「自宅付近をハザードマップで危険予測」

めあて  
自分の家の近くには、どのような危険があるだろうか？



#### ⑧ 社会の授業「ハザードマップだけで危険予測をしても良いのだろうか？」



生徒の自宅周辺の危険箇所



自分の家の近くは？



### 実践事例③ 効果的な避難訓練（授業とセットで避難訓練！！）の実施

地震と土砂災害の避難訓練では、実施の前に関連する内容についての学活や道徳科の授業を行った。地震の訓練では、「つなぐ～熊本の日々へ～」の教材を使い、土砂災害の訓練は、「くまもとマイタイムライン」の資料を使った授業後に実施した。訓練を行う前の視点を持たせ、教材を使いイメージをもって訓練をすることを意識して実施した。

道徳↓避難訓練（地震）



学活↓避難訓練（土砂災害）



### 実践事例④ 効果的な避難訓練（アクションカードでドキドキ避難訓練！！）の実施

避難訓練は、職員が行うものだという意識を持ち、すべての避難訓練でアクションカードをもとに訓練を行った。いつ、いかなる時に災害が発生するかわからないので、訓練の時はあらかじめ役割を決めず、その場でアクションカードを使って役割を決め、職員が動くようにした。訓練後に反省会を行い、時には消防士などの専門家にもアドバイスをもらって、アクションカードの見直しも随時行っている。また、小学校と連携した引き渡し訓練も行った。

ドキドキするカード配り



避難訓練後の反省会

引き渡し時  
アクションカード  
①～⑧



湯浦中学校

火災時  
アクションカード  
①～⑥



湯浦中学校

地震時  
アクションカード  
①～⑧



湯浦中学校

土砂災害時  
アクションカード  
①～⑧



湯浦中学校

アクションカード①

「職員室」

対策本部設置

- ・傘、雨ガッパ、旗の確認
- ・職員の携帯電話の保持確認
- ・役割分担の指示





## 【仮説 2】の実践

体験学習を通して主体的な判断力・行動力を育み、実践力を高める

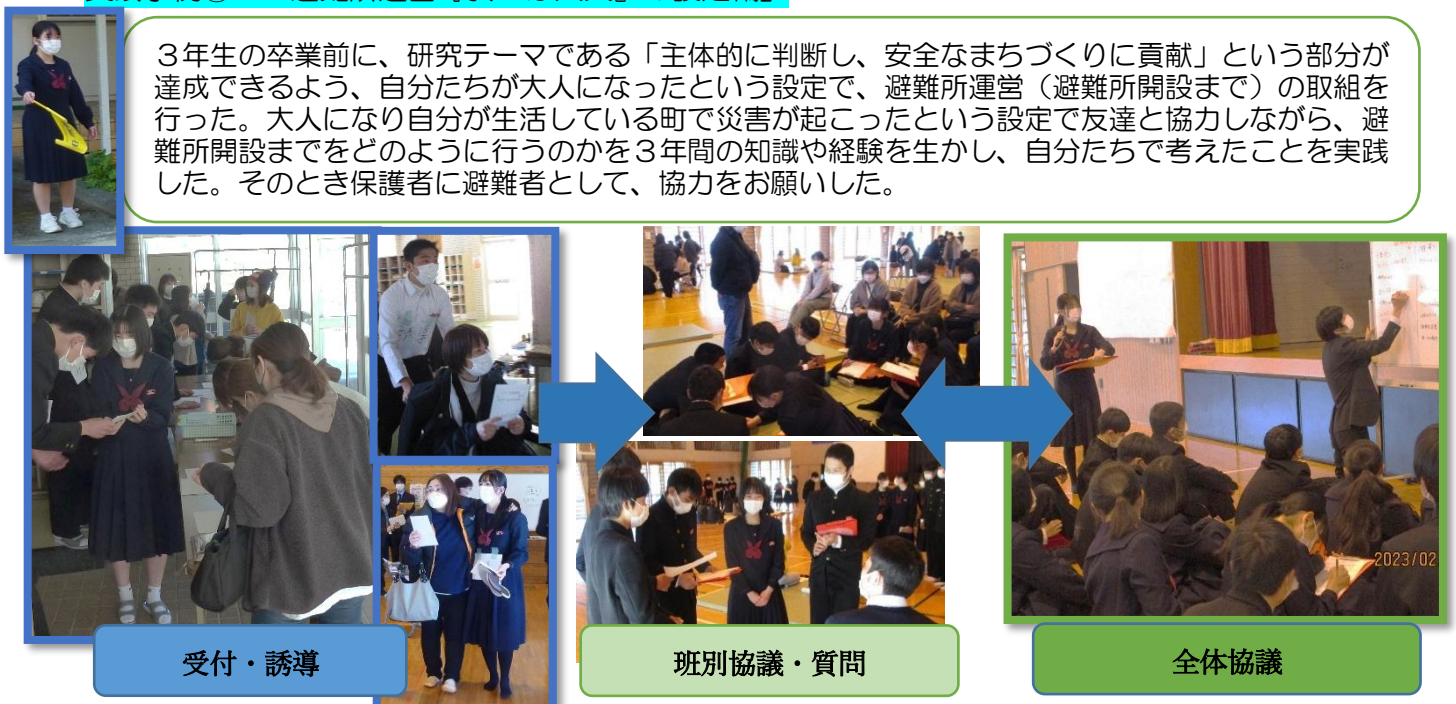
### 実践事例① 「防災食体験Ⅰ（自助）」

防災食体験Ⅰでは、電気が使えないときの食事という設定で、釜で湯を沸かし、ハイゼックスの袋を使ってご飯を炊き、缶詰のカレーを食べた。必要なものを自分たちで考え、学校の廃材を使って薪を作り、食器等も自分たちで考えて準備したものを使用した。1人ではできない作業を班でコミュニケーションを取りながら防災食作りを行った。また、あしきた青少年の家の方から指導・助言をいただいた。



### 実践事例② 「避難所運営『我々は大人』の設定編」

3年生の卒業前に、研究テーマである「主体的に判断し、安全なまちづくりに貢献」という部分が達成できるよう、自分たちが大人になったという設定で、避難所運営（避難所開設まで）の取組を行った。大人になり自分が生活している町で災害が起こったという設定で友達と協力しながら、避難所開設までをどのように行うのかを3年間の知識や経験を生かし、自分たちで考えたことを実践した。そのとき保護者に避難者として、協力をお願いした。





### 実践事例③ 「学校行事での防災訓練及び学習」

#### 体育大会・集会

5月に行われる体育大会に向けて、授業等で集団行動や点呼の練習を行った。また、点呼では、繰り返し実施していくうちに、改善点が出たので、その度に話し合いを行い、マイナーチェンジを行った。

緊急避難本勢！



〇〇さん！

ハイ

#### 職場体験インタビュー・学校安全点検

職場体験では、各職場を訪問した際、職場での災害対策についてインタビューを行った。また、学校での職場体験の生徒は職員と一緒に安全点検を行うなど、災害の予防についても考えた。

学校の中は安全？



Q 地震に対する備えは？  
A 水をたくさん用意し、園児用の粉ミルク、防災食や紙おむつを準備している。(保育園)

各職場で防災のインタビュー

#### 校外学習

校外学習では、活動プログラムの中に飯盒炊飯を設定し、家庭にある食材で自分自身のおかずを作り、飯盒で炊いたご飯と一緒に食した。また、体験活動の前には水害等の災害に対する危険予測訓練も行った。

#### PTA 行事 (学年行事)

1年生では木工教室を開催し、森林の役割等を学び、土砂災害についての知識を学んだ。また、3年生では、サップ体験を行い、海での危険について体験しながら学んだ。

飯盒 (はんごう) 炊飯



どこが危険なんだろう？

森の役割は・・・



海での危険予測！

### 実践事例④ 「生徒会活動での防災学習」

#### 生徒会総務部

日本赤十字リーダーシップ研修に生徒会の6人が参加し、他校の生徒と交流しながら、防災について体験したり、学習したりした。また、その経験をまとめ、自校の生徒にわかりやすく伝えた。

#### 給食委員会

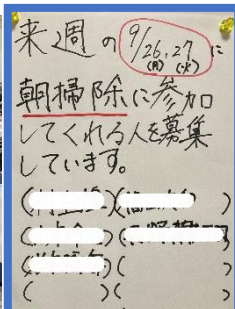
防災食クイズ・防災食紹介

#### 学習委員会

防災漢字テストの実施

#### 図書・文化委員会

防災カルタ作成・実施



リーダーシップ研修の話合い

V・S 活動掲示

防災食クイズ

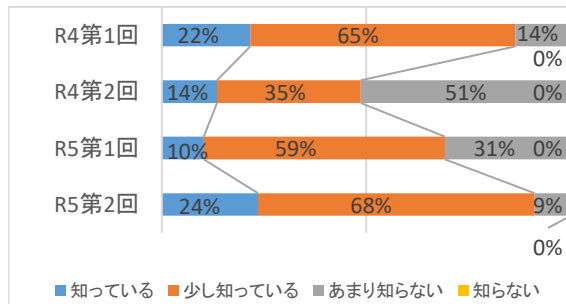
防災カルタ実施

# 生徒アンケートの考察・成果と課題

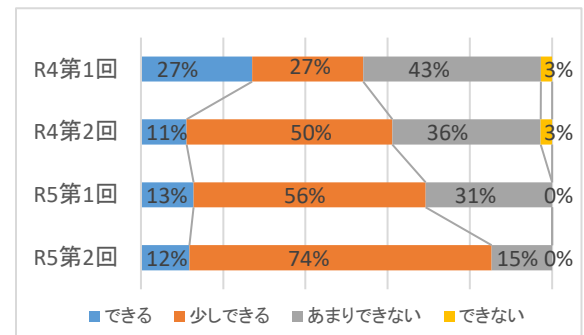
(調査集団：R4 1・2年生 R5 2・3年生)

Q1 あなたが住んでいる地域で災害が起きた時、どのように行動すればよいか具体的に知っていますか？

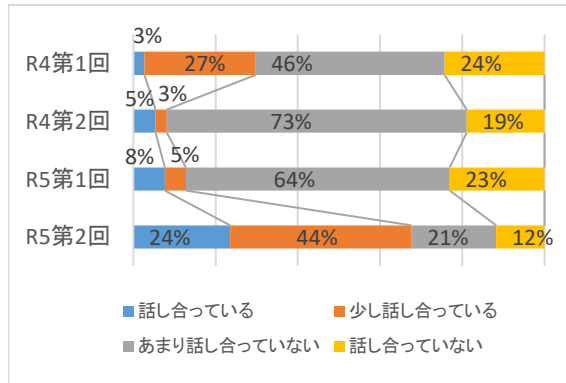
(防災上の諸課題の知識)



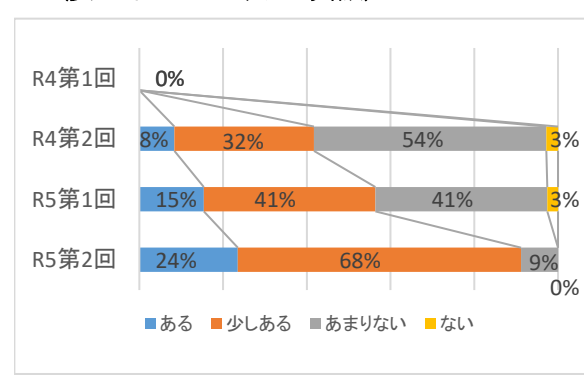
Q3 あなたが住んでいる地域で災害が起きた時、主体的に対応することができますか？ (主体的な判断力・行動力)



Q2 あなたの家庭では、災害の時の避難方法、連絡の取り方について話し合っていますか？ (防災意識の向上)



Q4 あなたは、災害が起こった時に、周りの人の安全のために何かできることがありますか。 (安全なまちづくりに貢献)



## 【考察・成果と課題】

- Q1 では、前向きな回答が減少し、その後で増加している。知識面の学習や体験学習を進めていくことで、自然災害を自分事として捉え、自分の知識が足りないという自覚の表れであった。しかし、さらに学習を深めていくと、具体的なイメージができるようになり、前向きな回答になっている。
- Q2 では、多くの家庭で、災害時の連絡方法を話し合っていないことが分かった。そこで、マイタイムラインを利用し、防災教育を受けた生徒の印象について保護者に気付きを書いてもらうことで家庭での意識向上が見られた。
- Q3 では、R4 第1回より R4 第2回、R5 第1回、第2回と前向きな回答が増えており、自然災害が起こった時に主体的に行動しようとする生徒が増えたことが分かる。実際に、防災食体験学習や避難訓練などに真剣に取り組む生徒が多く見られた。R4 は、普段の生活の中でも、安全意識の低い行動や災害を他人事のように捉えている発言が見られたこともあったが、R5 は防災学習の事後指導を充実させ、一つの防災学習を関連させて系的に行うことで、防災教育の日常化を図ることができた。
- Q4 では、自分だけでなく周りの人のことも考える視点を持たせたことで、より広い視野を持って周りの人の安全も考えることができるようになってきていることが分かる。しかし、まだ自分のことで精一杯の生徒もあり、個人の力をさらに高める必要がある。

## 【生徒・保護者の感想から】

- 今まで、災害のことは知っているつもりだったけど、今回警戒レベルについて初めて知ったことがあります。わたしは、警戒レベルが一番高くなったときに避難するときだと思っていました。しかし、そうではなく、レベル5では、緊急安全確保だと知りました。そのような状態になる前に、正しい情報を入手して、避難しようと思います。
- いつどこで災害が起きてもおかしくないのだから、防災について家族で話す良い機会になりました。また、もしもの時の合流場所が時と場合で変わるので、定期的に話し合うことも大事だと感じました。(保護者)
- 6時間目の学習では、改めて地震などの自然災害の怖さを知った。「自分のすぐそばで大きな災害が起きたら」「もし、友達や家族が亡くなったら」と考えるとぞっとする。避難訓練の後に感想発表をした〇〇くんが「自分の家の近くだったら」と言っていたので、私は近所の方々が逃げるのを手伝えるのだろうかかと不安になった。災害の被害を少なくする方法を考えていきたい。
- 私は、今回の水害で被害が少なかったから、何も考えてなくて、何もませんでした。今は、そのことをとても後悔しています。だから、次に災害に遭ったら、自分から積極的にボランティアに参加したいと思いました。